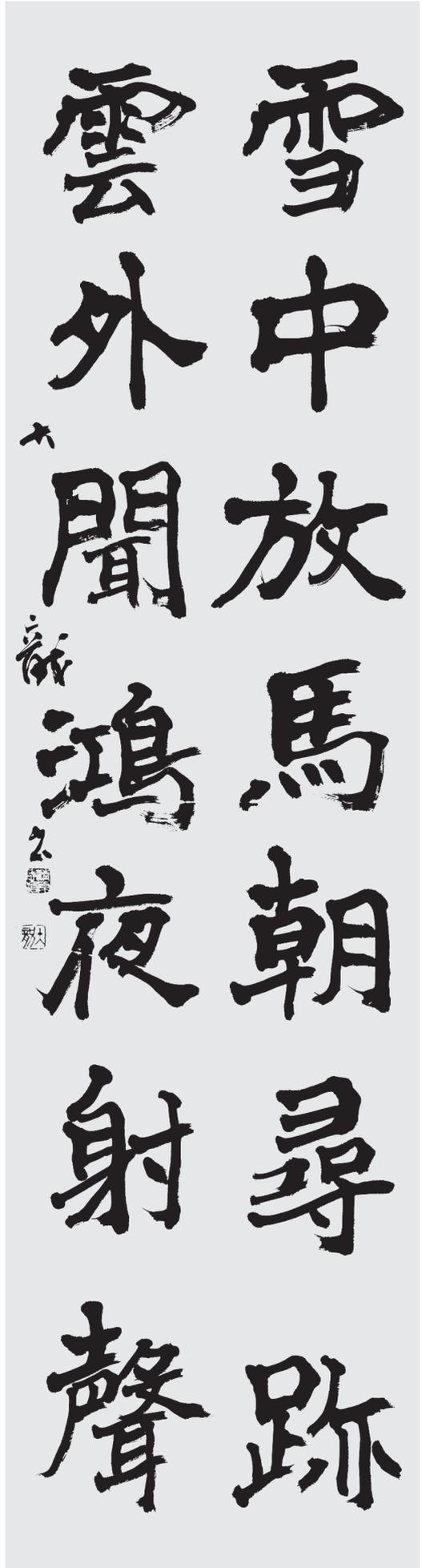
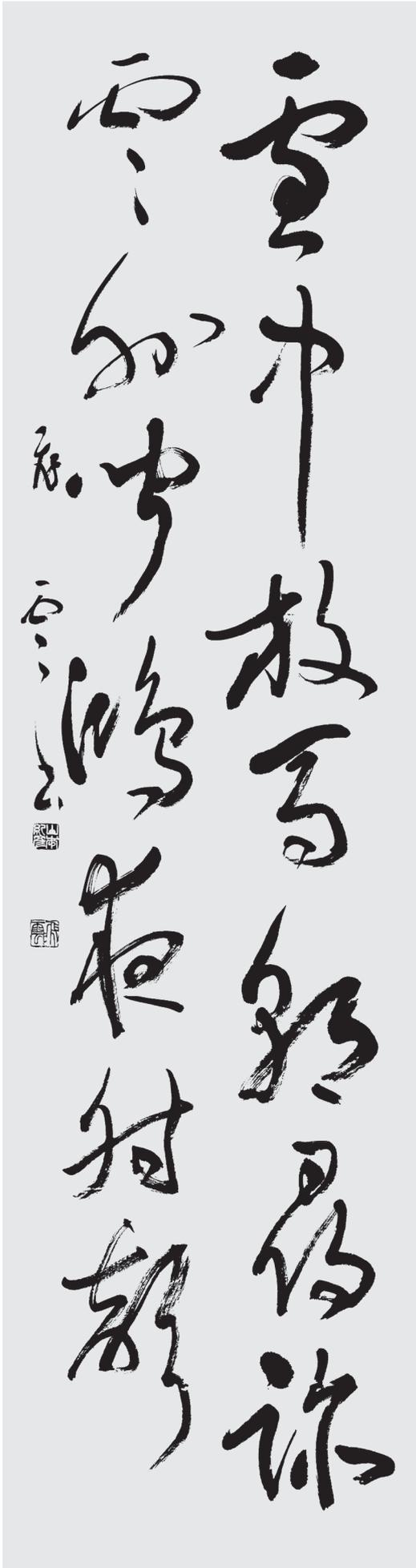


〈隷書〉 (この課題で書体は自由。但し、この課題は一人一点のみとする)



清原大龍先生書

〈行書〉



山本飛雲先生書

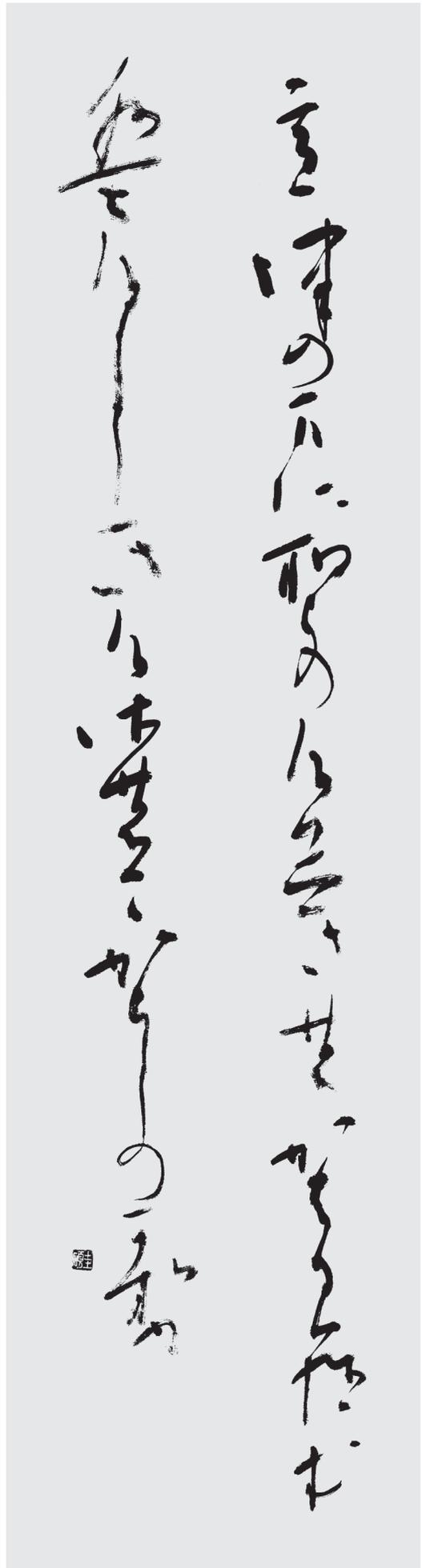
□ 雪中馬を放つて朝に跡を尋ね、雲外鴻を聞いて夜を射る。(羅紅)

雪降る天氣を追いやり朝に其跡を尋ねさがし、空高き夜の雲のあたりへ雁を聞いては声のする方向に矢を放つ。

次号予告「澄心得妙観」

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□ 意津の万に 所らの介志き農 か者る羅む 盤介しき介佐農 こからしの可勢  
 いつのまに 空のけしきの 変るらむ はけしき今朝の 木枯の風

△新古今和歌集 五六九 西行▽

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

井之上 南 岳先生臨

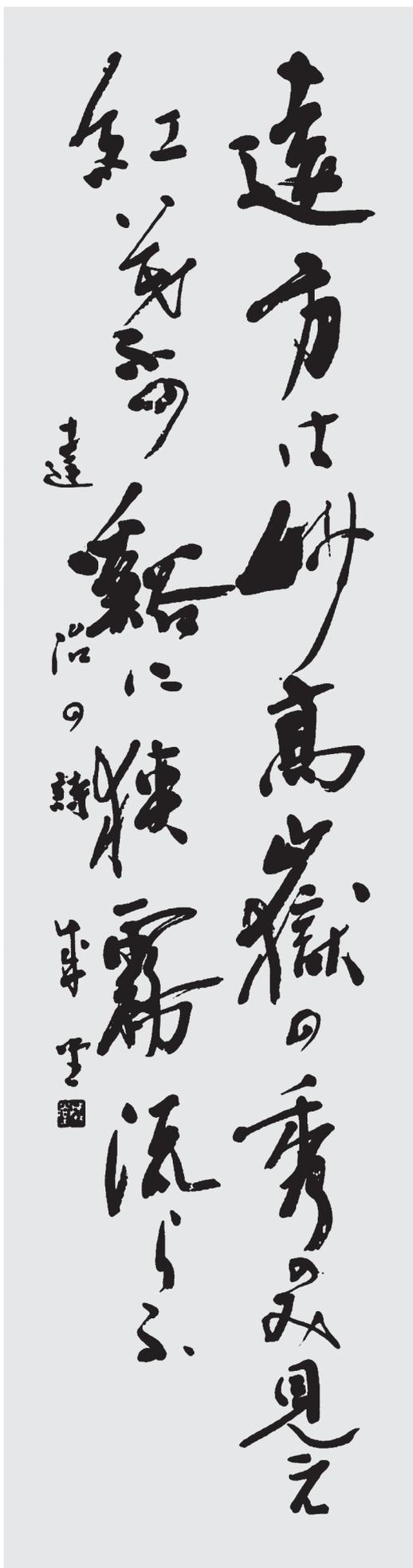


▽興福寺断碑

國處行明姿鑒俗謹身從道元方長子

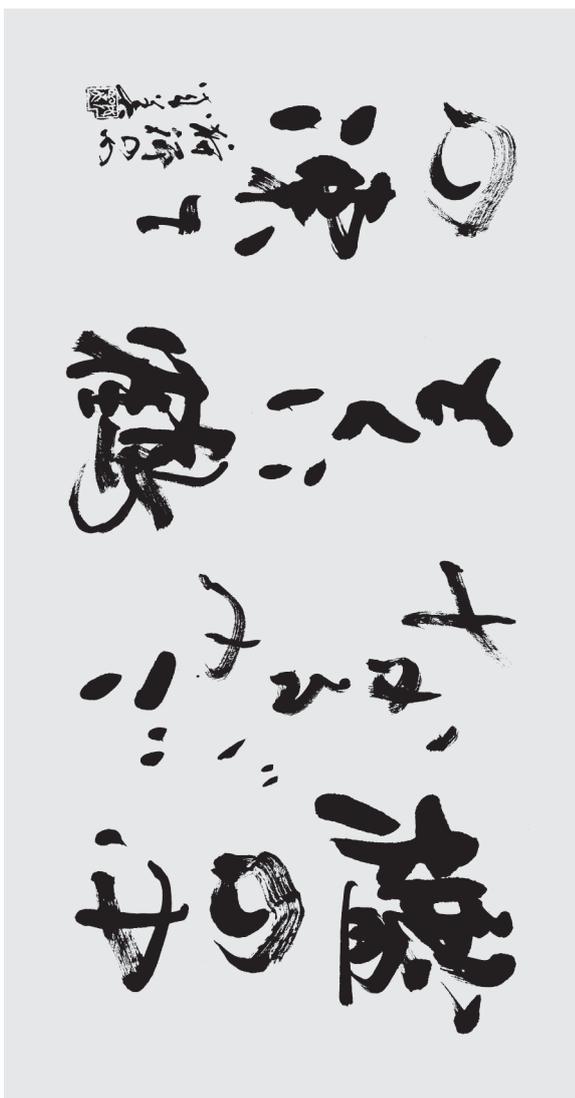
条幅随意 (この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

吉田成堂先生書



□ 発哺温泉にて (抄) 三好達治の詩 遠方は 妙高嶽の秀のみ見え 紅葉の谿に 狭霧流らふ

条幅随意 (半折½横のみ) (この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)



吉田成美先生書

□ 檻おりの中

なるがごとくに 鶴の凍いて

鷹羽狩行の句

そこは寒気という檻の中、極寒の雪原に立つ凍鶴(不動のままじつと立っている鶴のこと)の姿、ピーンとはりつめた緊張感と力強い生命力を感じます。その自然と立ち向かう鶴の優しさや温もりを表現しようと試みました。

《手本(課題例)にとらわれず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横½に一枚ずつたんで提出ください。

条幅随意(半折½)漢字・詩文書の手本は、各月交互の掲載となります。

(この課題で書体は自由。但、この課題は一人一点とする)



□ 山月夜窓寒し

山より出でた冬の月は 夜の窓を照らして寒い。

次号予告「南山獻壽觴」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課題は一人一点とする)



□ 山月夜窓寒し

山より出でた冬の月は 夜の窓を照らして寒い。

次号予告「南山獻壽觴」

吉田成美先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

半紙随意の漢字・詩文書の手本は、各月 交互の掲載となります。



□ 廉平<sup>れんぺい</sup>  
私欲なくして公平なこと。

小 畠 秋 聲 先 生 書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

▽興福寺断碑



△臨書▽

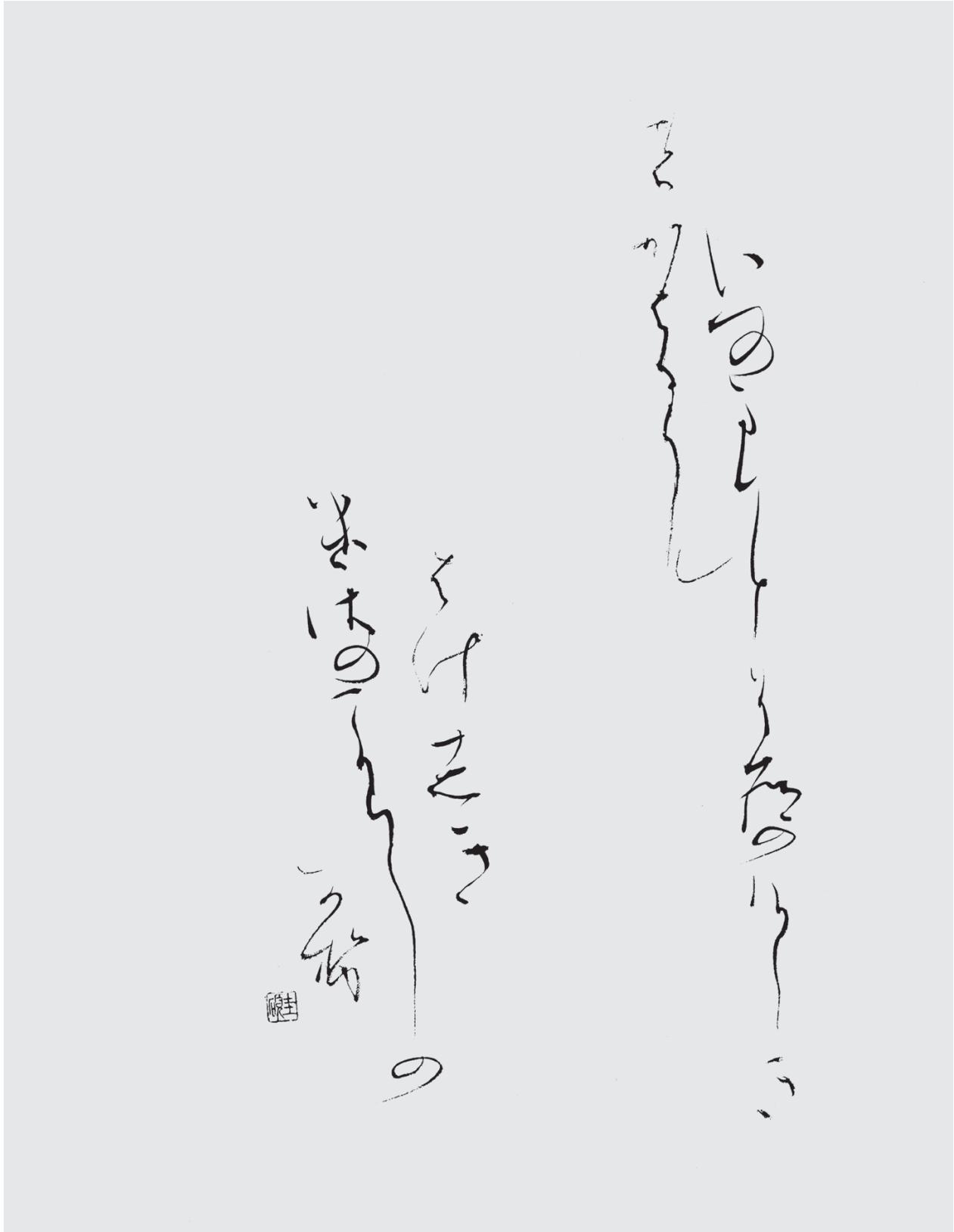
王羲之の真筆は、どのようなものだったのでしょうか。書聖の真筆を想像しながら、楽しく臨書しましょう。

「上柱國昇行」

大坪桂子先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

いつのまに  
空のけしきの  
変るらむ  
はけしき今朝の  
木枯の風



△ 仮名 △  
いつのまに  
そ羅のけしきの農  
か者るらむ  
者け志き遣佐の  
こ可らしの可勢

舟尾圭碩先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

半紙随意の実用書・手紙文の手本は、各月 交互の掲載となります

本日小包で木目小鉢が届きました  
内側が朱塗りの上品な漆器に  
改めて日本工芸品の素晴らしさを  
感じばらく見とれておりました  
お正月料理が映えそうです  
喜代

△手紙文▽

本日小包で木目小鉢が届きました 内側が朱塗りの上品な漆器に 改めて日本工芸品の  
素晴らしさを感じ しばらく見とれておりました お正月の料理が映えそうです 喜代

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

# 書譜

△暮らしに役立つ書▽

今年も余日少なくなりました。ご家族の  
皆様もお元気とのこと、安心致しました。  
さく、本日は心のこもったお手紙とび丁寧な  
お歳暮の品を頂戴し、誠にありがとうございます。  
月頃は私どもがお世話になっておりますのに、  
こうしてお心遣いをいただき、ありがとうございます。  
寒さ厳しく折、どうぞお身体を大切に。  
お健やかな新年をお迎えになりますよう、  
お祈り致します。

野のある便箋に書いてみよう。

△26cm×18cm▽

紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

小 畠 秋 聲 先 生 書





今月のかきかたドリル

(形や注意する点に気をつけてゆくり書こう！)

中学	小学6年	小学5年	小学4年	小学3年	小学2年	小学1年	ようねん
眺	適	協	陽	気	歌	中	ゆ

一般の方も是非チャレンジしてください。

坂元紫香先生書

(この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。)

かね

ようねん・小学1年

マシモス

小学2年

立冬の日

小学3年

白い鳥

小学4年

強い信念

小学5年

風花のまじり街

小学6年

将来の夢

中学1年

輝ける未来

中学2・3年

坂元紫香先生書

△条幅¼||四尺画仙紙半折¼: 68cm×17.5cm▽

□ 書き始めは、筆の先をきれいにそろえ、<sup>ハライ</sup>、<sup>トメ</sup>のちがいに気をつけて書きましょう。

マ  
ズ

小学二年

次号予告「かきぞめ」

□ 「か」は三画目の位置、「ね」は二画目の<sup>むすび</sup>に気をつけて書きましょう。

か  
ね

ようねん・小学一年

次号予告「パ  
ン」

坂元紫香先生書

□ 転折の強弱をはっきりとつけ、各字の空間は均等にとりバランスよく書こう。

白  
鳥

小学四年

次号予告「出  
発」

□ 「立」は横線の方向に注意し、「冬」は左右の<sup>払い</sup>を伸びやかに書こう。

立  
冬

小学三年

次号予告「正  
月」

吉田成美先生書

小学五年

次号予告「希望」

強い信念

□「強・信」はへんとつくりのバランスに気をつけ、「念」は払いを伸び伸ばしと。

小学六年

次号予告「新たな決意」

風花のまほう街

□漢字は文字の中心に気をつけ、平仮名はや、小さめに六文字がバランス良くはいるように。

秋永春霞先生書

中学一年

次号予告「出発」(行書)

将来の夢

□点画の流れを意識して、各字の字形やハライ、ハネにも気をつけて伸びやかに書こう。

中学二・三年

次号予告「新たな目標」(行書)

輝ける未来

□漢字と平仮名の調和に注意し、各文字の点画の流れを意識して伸びやかに書こう。

吉田成美先生書





小学四年

太陽の光が夏に向か 強く降り、大きな葉の 夕ナスの木の下がど も暑い目かげになるの です。
氏名
段級

①はかく書く  
 ②虫はつける  
 ③と虫はつける  
 ④はねる  
 ⑤はねる  
 ⑥はかく書く  
 ⑦はかく書く  
 ⑧はかく書く  
 ⑨はかく書く  
 ⑩はかく書く  
 ⑪はかく書く  
 ⑫はかく書く  
 ⑬はかく書く  
 ⑭はかく書く  
 ⑮はかく書く  
 ⑯はかく書く  
 ⑰はかく書く  
 ⑱はかく書く  
 ⑲はかく書く  
 ⑳はかく書く  
 ㉑はかく書く  
 ㉒はかく書く  
 ㉓はかく書く  
 ㉔はかく書く  
 ㉕はかく書く  
 ㉖はかく書く  
 ㉗はかく書く  
 ㉘はかく書く  
 ㉙はかく書く  
 ㉚はかく書く  
 ㉛はかく書く  
 ㉜はかく書く  
 ㉝はかく書く  
 ㉞はかく書く  
 ㉟はかく書く  
 ㊱はかく書く  
 ㊲はかく書く  
 ㊳はかく書く  
 ㊴はかく書く  
 ㊵はかく書く  
 ㊶はかく書く  
 ㊷はかく書く  
 ㊸はかく書く  
 ㊹はかく書く  
 ㊺はかく書く  
 ㊻はかく書く  
 ㊼はかく書く  
 ㊽はかく書く  
 ㊾はかく書く  
 ㊿はかく書く

小学五年

科学技術の進歩や国際的協 力の実現によって、天気予報の 精度は向上してきました。それ によって、わたしたちの生活は いっそう便利になっています。
氏名
段級

①すぐ上の横より長い  
 ②はねる  
 ③はねる  
 ④はねる  
 ⑤はねる  
 ⑥はねる  
 ⑦はねる  
 ⑧はねる  
 ⑨はねる  
 ⑩はねる  
 ⑪はねる  
 ⑫はねる  
 ⑬はねる  
 ⑭はねる  
 ⑮はねる  
 ⑯はねる  
 ⑰はねる  
 ⑱はねる  
 ⑲はねる  
 ⑳はねる  
 ㉑はねる  
 ㉒はねる  
 ㉓はねる  
 ㉔はねる  
 ㉕はねる  
 ㉖はねる  
 ㉗はねる  
 ㉘はねる  
 ㉙はねる  
 ㉚はねる  
 ㉛はねる  
 ㉜はねる  
 ㉝はねる  
 ㉞はねる  
 ㉟はねる  
 ㊱はねる  
 ㊲はねる  
 ㊳はねる  
 ㊴はねる  
 ㊵はねる  
 ㊶はねる  
 ㊷はねる  
 ㊸はねる  
 ㊹はねる  
 ㊺はねる  
 ㊻はねる  
 ㊼はねる  
 ㊽はねる  
 ㊾はねる  
 ㊿はねる

坂元紫香先生書

小島秋聲先生書

小学六年

地球に生命が誕生してから三十	億年もの間、生き物たちはさま	ざまなかん境に適応しながら生	きてきました。人間以外の生き物	は、電気もガスも使っていません。
氏名				
段級				

①「だて画をききに書く  
 言証証証証証  
 (たん)  
 まつぎぐ下に  
 おろすぐはねる  
 サ「育」適  
 適

私のちようは、明るく、 箱の中から、きらびやかに光 り輝いた。私たちは、その上に体を かがめて、美しい形や、濃い見事な 色を眺め、ちようの名前を言った。	氏名					段級				
氏名										
段級										

濃濃濃濃濃  
 目明明明明跳

小島秋聲先生書